

教員向け チャレンジ学習 補助資料

活動名：チャレンジ学習

対象学年：中学2年生から高校2年生

所要時間：40分程度（展開の一部を省略すれば時間の短縮が可能です。）

本教材の制作にあたって

JICA 地球ひろばの訪問をさらに深い国際理解につなげるための事前学習として制作しました。本教材をそのまま実践することで、開発途上国の課題や国際協力についてあまり関心のない学生にとっても取り組みやすい内容となっています。

ねらい

JICA 地球ひろばの団体訪問プログラムで訪れる学生が本教材を活用することで、訪問前に開発途上国への固定概念を取り除き、開発途上国そのものや文化多様性について理解する。また、国際協力がなぜ必要なのかについて考える。

チャレンジ学習の構成

① 導入（5分）

- ・「『開発途上国』ってどんな国？」
- ・「国際協力が何のためにあるの？」

② 展開（25分）

- チャレンジ1：写真から想像してみよう！
- チャレンジ2：私たちの学校と比べてみよう！
- チャレンジ3：何をしている人だろう？

※展開の「チャレンジ1」「チャレンジ2」「チャレンジ3」は、どちらか一つのみを選択していただいても実施可能です。

③ まとめ（10分）

1. 「開発途上国とは？なぜ国際協力が必要なの？」
2. 「JICA 地球ひろばを訪問するにあたって…」
3. 疑問に思ったことを聞いてみよう！

<チャレンジ学習の展開>

過程・時間	ねらい	活動	指導上の支援（留意点）
導入 (5分)	「開発途上国」に対するイメージを整理し、なぜ国際協力が必要なのかを考える。	自由記述 ・「『開発途上国』ってどんな国？」 ・「国際協力が具体的に何をしているの？」	・「なぜそう考えるのか」「どこで、その開発途上国についてのイメージを得たか」を生徒に問いかける。 ・2014年度の援助対象の開発途上国・地域数は154か国・地域。 (データ：2014 JICA 年次報告書)

<p>展開</p> <p>チャレンジ (1)</p> <p>(10分)</p>	<p>開発途上国への固定概念を認識し、途上国を多面的にとらえられるようになる。</p>	<p>「写真から想像してみよう！」</p> <p>第一問：これは、どこの国の民族衣装？</p> <p>…メキシコ（チアパス州）の民族衣装。</p> <p>第二問：ここは、どこの国？</p> <p>…左右ともにインドネシア（ジャカルタ）の写真。</p> <p>第三問：写真から、それぞれ背景のストーリーを考えよう！</p> <p>…左はガーナの写真。</p> <p>右はマレーシアの写真。</p>	<p>・写真の説明</p> <p>第一問：メキシコには地域ごとに様々な民族衣装があるが、写真はチアパス州の民族衣装。</p> <p>⇒<u>開発途上国の固有の文化を知り、多様な文化を尊重する姿勢の大切さに触れる。</u></p> <p>第二問：</p> <p>写真左)首都ジャカルタ中心部の高層ビル群。</p> <p>写真右)ジャカルタ市チリウン川支流で川岸ぎりぎりまで民家が並ぶ様子。</p> <p>⇒「<u>開発途上国＝先進国との格差がある国</u>」と捉えられがちだが、<u>同じ国内でも格差が存在していることを確認する。</u></p> <p>第三問：<u>(ストーリーは自由に考えてよい。)</u></p> <p>写真左)ガーナのカカオ畑で、カカオの実を収穫している様子。</p> <p>・日本ではチョコレートの原料であるカカオ豆の99.9%が輸入されており、その約75%がガーナ産。</p> <p>(データ：2014 財務省貿易統計)</p> <p>⇒生活に身近なものが開発途上国から輸入されており、<u>これらの国々は日本にとって大切なパートナーである(相互依存)</u>と説明する。</p> <p>写真右)マレーシアでの伐採跡。マレーシアでは森林伐採が深刻な問題となっている。日本ではマレーシア産の合板輸入が全体の約50%を占めている。</p> <p>(データ：2014 財務省貿易統計)</p> <p>⇒<u>自然破壊・生態系破壊等の途上国の問題が、私たちの生活や地球全体に影響を及ぼしていること(地球規模の課題)</u>を説明する。</p>
<p>チャレンジ (2)</p>	<p>世界の多様な文化を尊重しながら、なぜ国際協力が必</p>	<p>「私たちの学校と比べてみよう！」</p> <p>日本の授業とザンビアの授業をそれぞれ例にとって比較する。</p>	<p>・写真の説明</p> <p>ザンビアのリンダ・ウエスト小中学校の屋外授業の様子。教室と教員が不足している</p>

<p>(10分)</p>	<p>要かを考える。</p>	<p>① 自分たちの授業にあって、写真授業にないものとその逆を考える。</p> <p>②二つの共通点を探す。</p> <p>③それぞれの授業の様子から、互いに学びあえることを考える。</p>	<p>ため、授業は二部制。空き時間には屋外で授業を行って、不足分を補っている。</p> <p><u>(校舎自体は存在し、あくまで補助学習として屋外授業を行っていることに注意！)</u></p> <p>・二つの教室の良い点を考え、学習環境向上のためにお互い何が必要かを話し合う。 ⇒「援助する側と援助される側」で考えないよう注意する。</p>
<p>チャレンジ (3) (5分)</p>	<p>パートナーの国がより豊かになり、世界がよりよくなるために活動している日本人がいることを知る。</p>	<p>「何をしている人だろう？」</p> <p>① 写真の日本人男性がウガンダの学校で何をしているのか、写真から推測する。</p> <p>② JICA ボランティア事業の一つである青年海外協力隊の存在を知る。</p>	<p>・写真の説明</p> <p>小学校教員の養成学校で理数科教育の指導を行う理数科教師隊員。教える教員側が伝える内容をしっかりと理解したうえで、わかりやすく説明することが重要。そこに重点を置いた授業を心掛けている。小学校教員養成学校の学生はセカンダリースクールの卒業生で、日本の高校3年生から大学1年生くらいに相当する。</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>展開部で学んだことをもとに、導入部の質問を再び考える。</p>	<p>「JICA 地球ひろばを訪問する前に」</p> <p>① 「振り返ってみよう！」</p> <p>・開発途上国について再考する。</p> <p>・国際協力が必要な理由について再考する。</p> <p>② 「JICA地球ひろばを訪問するにあたって…」</p>	<p>・世界に約 150 か国ある開発途上国を「先進国との格差」の枠組みだけで捉えるのではなく、</p> <p>「それぞれの国に固有の文化や暮らしがあること（文化の多様性）」</p> <p>「途上国内でも格差が生じていること」</p> <p>「日本や私たちの生活にとって大切なパートナーであること」を確認する。</p> <p>・なぜ国際協力が必要？</p> <p>(1) 輸出入などを通じて、すべての国は互いに依存しあっている。<u>(相互依存)</u> ⇒大切なパートナー国の平和と安定や、友好関係が欠かせないから。</p> <p>(2) 開発途上国が直面している問題は、<u>地球規模の課題</u>でもある。 ⇒すべての国の人々が幸せに過ごせるために、課題を解決する必要があるから。</p> <p>・生徒の疑問はクラス内で共有する。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA がどのような組織かを知る。 ・ JICA 地球ひろばで何ができるかを知る。 <p>③ 「疑問に思ったことを挙げてみよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジ学習を通じて疑問に感じたことをクラスで共有する。 	
--	--	---	--

まとめ部の「疑問に思ったことを聞いてみよう！」では、挙げた質問を訪問の2週間前までに JICA 地球ひろば案内デスクまでお知らせください。団体訪問プログラムの中でお答えいたします。

【JICA 地球ひろば 案内デスク】

TEL : 0120-767278 / 03-3269-9090 FAX : 03-3269-3419

E-mail: chikyuhiroba@jica.go.jp

<チャレンジ学習の実施にあたって、参考資料・データのご紹介>

●参照資料●

『国際理解教育 実践資料集』

<http://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/index.html#kokusai>

・参考資料頁：

<http://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/ku57pq000006cck3-att/reference.pdf>

●国際協力推進員をご存知ですか？●

お近くの JICA 窓口として、地域で国際協力・国際交流を行っている団体などもご紹介可能です。

詳しくは、下記サイトをご覧ください。

JICA「各地の JICA 窓口 国際協力推進員」 <http://www.jica.go.jp/about/structure/suishin/>